

げんのじょういせき 原之城遺跡

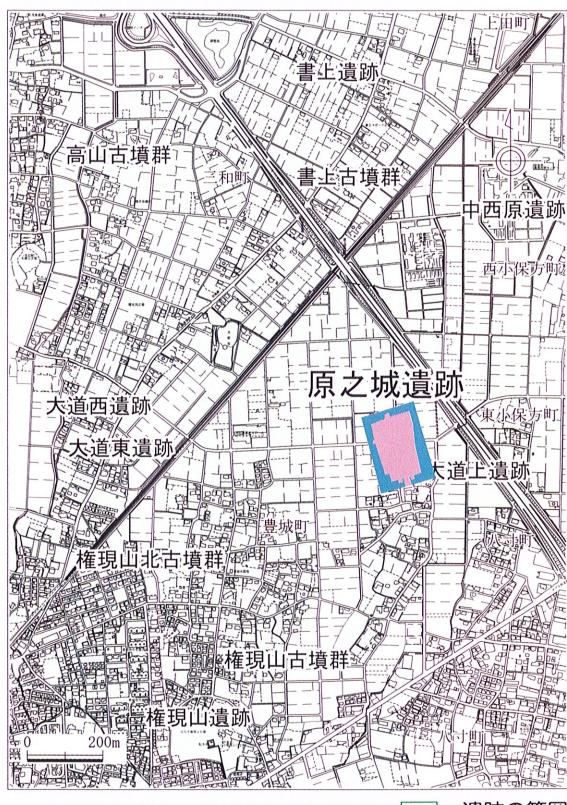
所在地:伊勢崎市豊城町

お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会 文化財保護課
〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673
E-mail:bunkazai@city.isesaki.lg.jp

原之城遺跡は古墳時代の首長居館（豪族居館）と呼ばれる遺跡です。幅の広い濠に囲まれた区画は、最大で東西110m、南北170mになります。濠の幅は北側で約20mあります。発掘調査で様相がわかっているのは全体の1/3程度です。北半分の区画には、鉤形にまがった溝（以後中溝という）が掘られており、その東西で様子が異なります。東側には大型の竪穴建物や比較的規模の大きい掘立柱建物が作られています。一方、西側では規模の小さい掘立柱建物が作られています。こちらは倉庫群と考えられています。

北辺の突出部東から東辺にかけては、土壘が残っていました。居館全体に土壘が作られていたのかは不明です。南辺の中央は濠を掘らずに土橋を作っています。土橋の脇の濠は他よりも広く掘ってあり、入江状になっています。北辺の中央と西辺の北寄りには、突出部を作っています。こちらも土橋と同様に土を掘り残して作っているようです。



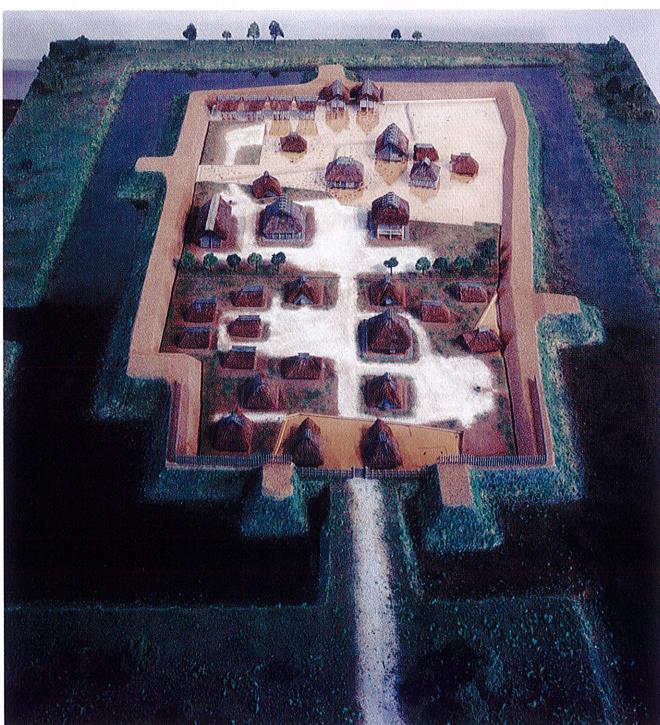
■遺跡の範囲



西側の濠



大形の竪穴建物跡



原之城遺跡復元模型

原之城遺跡からは多くの遺物が出土しています。中溝からは須恵器の器台の上に壺を貼付けた子持ち器台や須恵器高壺、子持ち勾玉などが出土しています。北東の角では土壘の裾から平坦部にかけて手捏土器が集中して出土した場所があります。そこではほかにも須恵器の器台や土師器壺、石製模造品やミニチュアの鎌などが出土しています。東辺の中央部では、埴輪のような土製品が多く出土しました。古墳から出土する円筒埴輪とは異なり、形は橢円形で突帯がありません。出土した時にはわざと壊されているかのようだ、バラバラの状態でした。

出土した遺物の主なものは、6世紀前半頃につくられています。また、土壘下に残されていた当時の地表面には5世紀末に噴火した榛名山の軽石（Hr-FA）が混ざった層が確認されていますので、居館は6世紀前半ごろに造られたと考えられます。

